

藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設完成披露式及び 自動車公道走行実証出発式が開催されました

平成26年3月24日、つくば市栗原3998番地外の農地において、藻類バイオマスの大量培養を行う施設が竣工し、「藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設完成披露式」が橋本英教衆議院議員、市原健一つくば市長外、関係各位の出席のもと開催されました。

この施設は、つくば国際戦略総合特区のプロジェクトの一つである「藻類バイオマスエネルギーの実用化」事業において、耕作放棄地等を活用し、炭化水素油を産生する藻類の大量生産技術の確立を目指すための施設であり、出席者から今後の藻類大量培養に大きな期待が寄せられました。

また、披露式開催に先立ちまして、本学の既存の施設で培養された藻類から抽出したオイルと市販の軽油とを混和した燃料を使用し、自動車公道走行実証出発式（自動車デモ走行会）を実施いたしました。

プロジェクトリーダーである生命環境系 渡邊信教授による運転で、永田恭介学長・市原健一つくば市長・茨城県担当者が同乗し、本学本部棟前より藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設まで走行いたしました。

今回の自動車公道走行実証につきましては、筑波大学、つくば市、茨城県及び関彰商事株式会社（本社：茨城県筑西市一本松1755-2）、シナネン株式会社（本社：東京都港区海岸1-4-22）が走行実証に関する協定書に基づき、連携して実施したものであり、次年度以降も継続して行う予定です。

なお、藻類産生オイルを燃料とした自動車が、公道を走行することは国内で初めてのケースとなります。



自動車公道走行実証出発式テープカット

(左から筑波大学渡邊信教授、茨城県増子企画部理事兼科学技術振興監、つくば市市原市長、筑波大学永田学長、橋本英教衆議院議員、関彰商事関社長、シナネン崎村社長)



自動車公道走行実証



永田学長挨拶



関係者代表記念撮影

(左から筑波大学ベントン副学長、同東副学長、同つくばグローバルイノベーション推進機構中村機構長、同永田学長、同渡邊教授、つくば市市原市長、橋本英教衆議院議員、茨城県増子企画部理事兼科学技術振興監)